

# 校長室だより

令和8年2月20日（金）  
第 42 号  
十日町市立中条中学校校長室

## 3. 11について

2011年3月11日（金）は日本にとって忘れられない日です。この日、東日本大震災が発生しました。もう15年が過ぎようとしています。私の教員人生の中でも忘れてはいけない日です。3月を目前にお読みいただけたらと思います。

2011年、私は南魚沼市立城内中学校に勤務していました。城内中はもう八海中学校に統合し、閉校になっています。当時、2年生の学年主任兼学級担任で3月11日は関西方面の修学旅行の2日目でした。2日目は班別自主研修でした。朝、左京区の南禅寺近くのホテルを班ごとに出発し、電車やバスを利用して研修に出かけました。チェックポイントをいくつか設け、私たち引率職員は手分けして生徒の様子をみることになっていました。最後は清水寺に集合する設定でしたので、清水寺の近くの土産物店の一角をお借りして本部にしていました。

東日本大震災が発生したのは14時26分です。ちょうどその時間帯、天気もそれなりだったので、清水道というバス停から歩いて清水寺に向かっているところでした。後で考えれば、発生時刻に京都では全くと言っていいほど揺れませんでした。揺れに遭った記憶がありません。



本部に到着し、何気なくテレビを見ました。津波に揺られている船舶の映像が出ました。最初「リアルな映画だな」くらいの受け止めでした。しかし、その店員さんから東北で大地震があったらしいと聞かされ、現実の映像だと自覚しました。映像を見てもどのくらいの状況かは分かりませんでした。テレビにくぎ付けになり、事の重大さがだんだんと分かってきました。京都はほとんど被害がないので、そのままの行程を続けました。

私事ですがその日は娘の高校の合格発表の日でした。なかなか連絡が来ませんでした。電車が止まり、友達の保護者の方から送ってもらったと後で聞きました。

ホテルに帰ってからが大変でした。まずは情報収集です。学校に電話しても情報はありません。私たちはテレビの報道に注視するしかありませんでした。旅行社の添乗員さんが必死に情報収集をしてくれました。（今年の修学旅行で2年生がお世話になる業者です。）

帰りの行程は、東京周りで新幹線を乗り継ぐ予定でした。情報収集していると、3月11日が最終日だった学校は、東海道新幹線の中でストップし、だいぶ待ったところ何とか東京までたどり着けたが、上越新幹線が動かず、東京都内の公共施設の廊下で待機となった学校があるという情報が入ってきました。

どうするかを検討し、決めなければなりません。夕食の際には生徒には「東北で大きな地震が発生した。被害の状況や帰りの交通手段の状況が今まだ不明だ。心配だが、今情報集めをしながら、今後の対応について考えている。もう少し待つてほしい。とりあえず、明日帰るつもりで準備を進めるように。」とだけ言いました。夕食の時点ではそれしか分かりませんでした。

その日の夜は教職員の部屋で遅くまで対応について検討することになりました。本来、夜は生徒の各部屋を見回りするのですが、そんな余裕はありません。生徒たちもその状況を察知し、夜に騒ぐこともなく、それぞれの部屋で静かに過ごしてくれました。

最終日の動きについて決まったのは、深夜でした。新幹線は全く動く見込みがないことを受け、旅行社が3日目に使う予定のバスを、南魚沼までの送迎に使えるように手配してくれました。最終日は太秦映画村を見学し、そこで昼食をとってから、京都駅で東海道新幹線に乗る予定でした。そのバスを新潟に向けて走らせてくれることになりました。

バスで帰ることになったので、そこから細かいことについての検討となりました。出発時間や使用道路、昼食等をどうするかです。バスの経路は日本海周りの北陸道経由しかないだろうと決定しました。中央道を使うことも考えましたが、震源地からできるだけ遠いほうがいいだろうと判断しました。



旅行の前に、自家用車で京都まで旅行したことがあり、その経験が判断材料になりました。

新潟への出発時間は当初、太秦映画村を見学してから帰路につこうかとも考えました。しかし、途中の道路状況が分からないので、万が一を考え、映画村の見学をキャンセルしました。昼食は、太秦映画村で積み込みができず、途中での積み込みもできないことが判明しました。50人弱の旅行隊でしたが、途中での食事を予約することも不可能でした。また、最後の見学地である太秦映画村でお土産を買おうとした生徒も多かつたはずですが、そこで、高速道路の主たるサービスエリア（SA）、パーキングエリア（PA）すべてに停車し、お土産を買ったり、各自で自由に昼食をとったり、買ったりすることができるようにしました。すでにお小遣いが尽きた生徒には若干お金を貸すことにしました。

そのことを生徒に告げたのは、朝食前の連絡の場面でした。生徒にとってはショックだったと思います。しかし、この現実を受け止めてもらうしかありませんでした。心の中では、文句を言っていた生徒もいたと思いますが、誰一人として口にはせず、対応してくれました。お小遣いがないと申し出た生徒もいませんでした。太秦映画村でお土産を買おうとしていた生徒も仕方ないと思うしかなかったと思います。

ホテルを午前8時30分に出発しました。なんとか確保できた1台のバスで新潟に向かいました。まず京都で高速のインターに乗るまで大渋滞でした。ホテルから京都東ICまで約8kmで通常であればすぐなのですが、1時間半近くかかったように記憶しています。北陸道に乗り、順番にSA、PA巡りです。途中たくさんの修学旅行バスに出会いました。学校によっては途中のSAでバスを乗り替えていた学校もありました。一台ですべて新潟まで帰れたのはラッキーでした。



バスの中で忘れられない出来事があります。バスでの長い移動です。だんだん生徒も飽きて疲れてきます。運転手さんも2名で交代しながらの移動です。そんな時、運転手さんから「DVDを見せましょうか」と提案がありました。「是非お願いします。」それしかないと思いました。ドラえもんが流れたとき、それまでバスの中で騒がしかった生徒たちがおとなしくなり、熱心にDVDを見ていました。とても印象的でした。

北陸道、関越道には地震による大きな損傷もなく、無事に六日町まで帰ってくることができました。学校に到着したのは午後6時半です。ほとんどのSA、PAで停車したとは言え、約10時間の移動でした。生徒もとても疲れていました。学校に到着すると、保護者が「おかえりなさい」という手書きの横断幕を準備して待っていてくれました。それを見て無事に帰って来ることができて本当によかった、生徒に何もなくてよかったと実感しました。

今思い返しても、その場その場の映像が思い出されます。3月11日、私たちには直接の被害はありませんでしたが、災害はいつ起こるか分かりません。東北では多くの人が命を失い、甚大な被害がありました。3月が近づくと思い出します。